

## 麻生区区民会議 第6回地域交流・文化部会 議事要旨

- 1 開催日時 平成23年5月17日（火）午前13時00分～15時40分
- 2 開催場所 麻生区役所第5会議室
- 3 出席者 [地域交流・文化部会委員]  
石井委員、植木委員、魚本委員、鴨志田委員、菅原委員、竹市委員、  
田中委員、武濤委員、土井委員  
[事務局]  
安生企画課長、阿部企画課担当係長、川里
- 4 傍聴者 0人
- 5 議 事
  - (1) 調査審議課題について
    - ア 「高齢者・障がい者などが暮らしやすい環境づくり」について  
**【報告事項】**
      - ・町内会・自治会へのヒアリング結果が、石井委員から報告された。**【主な意見等】**
      - ・町内会（新百合ヶ丘自治会）はやまゆりに、シニア世代の市民活動参加の推進や支援にも期待している。
      - ・定年退職して、活動したい人たちの需要があり、やまゆりで定年退職者同士の交流により刺激を受け、再び地域に戻って活躍されている方の例も多い。
      - ・ゆうゆうクラブに対して、自治会はちらしの印刷・配布やその費用負担などのバックアップを行っている。
      - ・千代ヶ丘自治会で、敬老の日のお祝いを65歳以上の方に渡しているが、他の自治会などと比べて、随分対象が若い。
      - ・敬老の日に高齢者にお祝いを渡す、ということは、実際に相手の顔が見えるという意義もある。
      - ・各グループごとのヒアリングと課題の提示を受けて整理し、次の展開を決めていかなければならない。
      - ・ボランティアグループへのヒアリングに当って、担い手が少ないのではないかと予想していたが、実際、利用者が少ない事実には驚いた。ハンディのある人、ニーズのある人に情報がうまく届いていない。
      - ・利用者需要の把握のベースは町内会・隣近所から情報を吸い上げるのが望ましいが、現状うまくいっているとはいえない。
      - ・うまくささえあいの活動を実施している町内会にスポットを当て、他の町内会などへも同様の活動を広げていけないか。

- ・ボランティアグループの活動においては、担い手の高齢化や、活動情報が広まらないこと、活動場所の確保などの問題がある。また、有償ボランティアが多くある中、若い人の参加が少ない。
- ・若い人の参加を促し、活動を長く続けていく上では、働き甲斐があって経済的な保証もある活動を考えていく必要がある。
- ・「さしす」のメンバーから聞いた話では、学生の頃は無償ボランティアでもよかったが、大人になってからも無償ボランティアのままで活動続けるのは厳しいと感じているそうである。
- ・行政が関係している活動については、有償のものが多くようである。区社会福祉協議会（以下、「区社協」で活動しているボランティアは無償である。）
- ・有償か無償かは、活動に携わる人が選べばよいことで、選択できるようなシステムを構築していけばよい。
- ・週に1回の配食サービスのほかにも、いろいろな活動が展開されているが、公的な補助金の投入先の選択と、担い手としての若手が育たない問題点がある。
- ・担い手が退職者ほか、バラバラの人材の集団だと、非効率でもある。組織で活動のすべてを行うのではなく、例えば町内会と連携して、活動を細分化（例：調理と配送、見守りをそれぞれ分担する）してみることも考えてみてはどうか。
- ・助成金などの補助があるから、ボランティアが成り立っている現状がある。担い手の自己負担が厳しい現実、受け手がサービス料を支払えない事情もある。
- ・個人情報の入手が困難で、どこにどういうニーズの方がいるのかの把握がうまくいかず、もどかしい。
- ・要援護者は、自分から行政に届け出ると、行政から町内会に依頼があり、町内会等の中でささえあいの活動に携わる実働部隊へと引き継がれる。
- ・個人情報保護法が1つポイントとしてある。要援護者は、助けてもらいたければ登録し、個人情報保護を優先すれば登録しない。
- ・ヒアリングを行った町内会には、規模や歴史などに違いがある。実際に、祭やどんど焼きなどのイベントを単独で行う町内会と、他と連携して開催する町内会とがあるように、「ささえあい」を考える際にも、手順や手法など、その実行プランは町内会により異なるものと思われる。われわれ区民会議としては、事情の異なる町内会がささえあいを進める際のメニューと言うか、多様な選択肢の提供ができればよいと考える。
- ・町内会の役員が短期（1年など）で交代してしまうことが多く、活動の活発化が難しい側面があることがヒアリングでわかった。また、マンション等は必ず管理組合を通してから動くので、制約が多くて、ささえあいの活動を浸透させるのが厳しい。
- ・消火器等の備品や避難場所の確認により、住民の参画意識を促すことができるのではないかと。その1つの答えとして、新百合ヶ丘自治会の防犯活動が挙げられる。
- ・「防災」という視点から「ささえあい」できる環境を見出してみてもどうか。
- ・「何かあったとき、あなたはどのような能力をもって役に立てますか？」という問いは、良いと思う。例えば、発電機の場所や扱い方を知っている、とか、井戸の場所

を知っている、とか、この人は看護師や救急救命士の資格を持っている、という情報を取りまとめて、もっと活用できたらよいのに、と思う。

- ・こども文化センター等の施設について、第1～2期区民会議で調査したこととリンクできないか。例えば、施設を緊急避難所として活用することはできないか。
- ・高齢者や障がい者の問題が優先課題として、課題に近いところの「ささえあい事業」から各担い手へのヒアリングと進めてきたが、町内会においては「ささえあい」とはまだまだ遠い側面もあり、何を調べているのかよくわからなくなってきた。
- ・「ささえあい」を進めるに当たって、非協力的な組織もあるし、家族が部外者の協力を嫌うケースもある。
- ・市政だよりなどの広報媒体で、先駆的な「町内会の取り組み事例紹介」を発信し、他の町内会でも活動に取り組んでもらってはどうか。
- ・麻生市民交流館やまゆりでも宣伝してみてもどうか。

#### 【確認事項】

- ・各ヒアリングを通して見えてきた課題をまとめ、今後どうすすめていくか、課題解決の案を各委員に考えてもらう。次回の部会で課題解決に向けての話を進めたい。

### イ 「区民が主体となって進める芸術・文化のまちづくり」について

#### 【報告事項】

- ・今後、芸術・文化関連団体にヒアリングを実施するのに伴い、区内の文化・芸術活動関連の概要を事務局から説明・報告した。

#### 【主な意見等】

- ・区民が主体となるには、町内会に関わってもらう必要がある。
- ・各文化・芸術事業には1つ1つに歴史あって、それらを統合して「点」から「面」へと広げていくためには、ヒアリングの質問項目をきちんと整理する必要がある。

#### 【確認事項】

- ・「芸術・文化のまちづくり」のヒアリングについては、おおよそ次のスケジュールにより進めていく。

| 時 期   | 内 容            |
|-------|----------------|
| 6～9月  | ヒアリングの実施       |
| 9～12月 | ヒアリング結果のまとめと考察 |
| 2～3月  | 区民会議フォーラムでの発表  |
| 4～5月  | 第3期取り組みのまとめと提言 |

- ・6月中にヒアリング項目をまとめる。

### (2) その他

- ・次回、第7回部会の日程については、追って調整する。